

感染症情報 9月5日～9月11日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	776例(堺市 33例)
②おたふくかぜ	330例(堺市 14例)
③溶連菌感染症	311例(堺市 22例)
④RSウイルス感染症	237例(堺市 12例)
⑤突発性発疹	130例(堺市 8例)

が報告された。

感染症報告数は前週より5.6%増の2,213件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、おたふくかぜ、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、突発性発疹の順であった。おたふくかぜが府下では前週比3%増で、堺市では前週23例から14例に減っている(39%減)が、当科ではまた増えている印象である。溶連菌感染症が府下で20%増、堺市で前週11例→22例で倍増であった。RSウイルス感染症が府下で25%増とさらに増えており(堺市では7→12例)、流行が懸念される。ヘルパンギーナが上位5位から消えた。

関西空港内事業所における麻疹の集団感染の状況:堺市医師会からの報道発表資料によれば、9月7日に新たに一人陽性が判明して累計33名となったが、12日までに全員回復したとある。

大阪府下では8月17日から9月14日までに上記集団感染を含めて42例が麻疹と報告されている。兵庫県尼崎市の保育所などを中心とした集団感染(12日で18人)も出てきており、定期接種の対象の子はMRワクチンの接種を至急していただきたい。

風疹の報告はなかった。